

紅緑編「滑稽俳句集」を読み解く 12

2010.05.24 (聞き手 高橋素子)

高橋 今回で紅緑の俳句集の読み解きも一二回目、丁度まる一年になります。
そうして面白く分かり易くご教授戴いた百八年前の滑稽の本質に迫る旅も「春の部の詠物」はあと少しと言うことに・・・

会長 紅緑編の滑稽俳句集には、現代の人にはピンと来ない可笑しさだなあ、という句もあります。
それは生活のテンポの違いだったり習慣のちがい、などで生まれてくるものかも。
ですから読み解くためにはこちらから歩みよる必要があります、また、そうすることで育てられてゆくわけです。

高橋 成る程、そう言うことなのですね。

それでは、本日は「春の部の詠物」の前の続きから・・・
そう言えば、前回お願いした「会長の現代詠物のお手本」流石に面白かったですね。
大笑いしてしまいましたが、春の部の楽しく苦しかった旅の終了を祝して今日も後でお願いしていいですか？（笑い）

会長 お安いご用です。
これも滑稽俳句を読み解く欄を担当していればこそその責務ですね。

高橋 よかった！
有難うございます。
また一段と楽しみが増えました。

それでは改めて前回の続きから「春の部の詠物」
ご教授よろしくお願い致します。

二月廿五日惟然にとはれて
廿八日京へかへらんといふ時
☆ **止られぬ又きさしませ花ちらば** 鬼貫
鬼貫を訪ねて来た惟然が三晩泊まって京へ帰らんとする時の餞の句という事ですね。

鐘馗の画に
☆ **下戸と鬼はかり出せ花の大江山** 也有
疫鬼を退け魔を除くと言われる鐘馗の画に詠んだ
也有の句ですよ。

会長 餞の句は「止められぬ」に別れを惜しむ
気持がよく出ています。
花の散る頃に様子を見に来てほしいとのことですね。
「下戸と鬼はかり出せ」は花の名所大江山を詠んで「下戸と鬼」は花の名所には似合わないから追
い出せというわけです。
大江山は鬼退治伝説で知られていますね。

高橋 背面達磨賛
☆ **達磨さんこちら向かせ花も候** 古洲
これは少し難しいですね。達磨の背中に句が書いてあるという事ですか？
ご説明下さいね。

会長 背面達磨は面壁座禅の達磨のことですね。
そうです。
座禅なんかしないでこちらをご覧よ。
さくらも咲いてる。

と呼びかける句が背中に書いてあるのです。
達磨はこちらを向くことはないからこの賛の句
は、古びることはありません。
いずれしてもお洒落な作品ですね。

高橋 背面達磨とは壁に向かって座禅している達磨なの
ですか？
次に参りま〜す。

福祿壽

☆ 目出度さを一字まけたり福寿草 也有

会長、 也有は面白い発見をした様ですよ。

根岸にて

☆ 山吹をさし出しそうな垣根かな 一茶

句の詠まれた根岸は一茶の生きた江戸時代の頃
には閑静な地で鶯が多かった事から「初音の里」と
呼ばれたそうですよ。

会長 福寿草には福祿壽にはある「祿」の字がありませ
ん。祿はめでたい言葉です。だから、

祿の字の目出度さを一字まけたる福寿草
山吹をさし出しそうな垣根かな

山吹は垣根から枝を差し出したように伸ばして咲
きますね。 これから 枝を伸ばして
咲くのでしょうか。
擬人化が可笑しいです。

高橋 成る程、次に参りますね。

芒に霜の髭四十一とはせを翁のたふれ申されける
所のとしの春を迎へ吾蓬萊のかざりものに白蓮の

思よりへて

☆ 笑へ人 藪と海老とわが髭と 成美

藪・・この字は「カイ」？

なんと言う意味でしょう？ ご説明下さいね。

会長 そうです。

これは、藪は「かい」と読みます。

蔓性の植物で「トコロ」。

ヤマイモ科の雑草みたいな奴ですが 髭をのばしたように見えるんです。

鬼海老 おにところ とも言うんですね。

だから 「私の髭は 海老の髭とも藪の蔓とも見えるほど。笑って下さい」と言ってますが「ヒゲ」を自慢しているわけです。

蛙の柳に飛びつくとて腹を見せたる繪に

高橋 ☆ 見付けたり蛙に臍のなきことを 也有

何度読んでも、結構面白いですが、
この句は『インタビュー⑩紅緑編「滑稽俳句集」
を読み解くⅡ』の自序の中に一度出ていました
よ。

「これは画賛ですね。実に気軽に詠んでいます。
まさに即興の可笑しさでしょう。」とご説明下
さってますね。

会長 その絵がおそらくは「頭と脚四本」だけ描かれて、空白の部分をお腹としていたのでしょうか。

也有は、「この空白が「腹」なんだ」と、すぐに理解して、なるほどそういえば「臍」がないと納得したのです。

だから添削するならば、**臍のない腹を見せたる蛙かな** ということになりますね。

高橋 次は子規の句ですよ。

露石子のために

☆ 蛙を愛す蛙露石を愛すかな 子規

俳壇を退きし露石に

☆ 知るや蛙露石は今年聾なり 子規

聾？そのままの意味？

それとも、俳壇を退いた露石から今年は便りが途絶えたと言うことでしょうか？

会長 水落露石は、子規が提唱した新俳句運動に馳せ参じた最も古い一人として知られていますね。
耳が遠くなって、俳壇から身を引いたということですね。 その露石は蛙好きだった。
そのことを蛙は知ってるだろうか、片思いの友人に対して、あなたの思いを相手に知らせましょうか。
みたいな可笑しさがありますね。

高 傘の化物に題す

橋 ☆ 藻かくれや蛙手を出し足を出す 紅緑

ご説明下さいね。

会長 「一物仕立て」ですね。
藻隠れの蛙・・・という意味ですから。
戯画にある「傘のお化け」をご覧になったこと
おありですか？
閉じた状態の傘に手足を添えた絵です。
藻隠れの蛙も似たようなものだ、ということですね。

高橋 次の句は初春に詠むには余り綺麗な句とは言えま

せんが・・

初春詠

☆ 鶯が梅の小枝に糞をして 鬼貫

会長 芭蕉の句にも鶯の糞の句がありますね
鶯の餅に糞する縁の先 鶯は季語の本意は
「声を愛でる」もの。それを「糞」にしてしまっ
たそこが可笑しいわけです。季語の本意をうらぎ
るのが滑稽の本来・主流なんですね
鶯が梅の小枝に糞をして
翁の縁の餅にもぼとり なんてのは？

高橋 過ぎたるは・・・ 次に参ります。

一茶坊の東へかへるを

☆ 雁はまだ落ついて居るにおかへりか

大江丸

川わたり布袋に

☆ 鶯に似ぬ足を小鮎の笑ひけり 也有

也有の句は本日先に御覧戴いた「☆柳に蛙の圖」
同様「紅緑の滑稽俳句集・Ⅱ」の自序の中で一
度ご解説戴いていますね。

「布袋は唐末期の禅僧をモデルにした七福神の中
で唯一実在の人物です。

背が低く太っていて脚も短い。

だから川を渡る布袋をみて小鮎が鶯と比較して
笑った。」と詳しく面白くご解説下さってます
ね。

会長 仰るとおりです。

小鮎がこの句の季語ですが 作者には 小鮎が見
えているかということ、そうではない。

たとえ見えていたとしても 小鮎が笑うのが見えるかといえば そうでない。
鮎は笑ったりしない。
とすると フィクションなんですね。
けども 一瞬 ホントカナ と思わせる可笑しさがあります。
布袋は 七福神のひとりですから 揶揄したりはしないものです。
それを敢えてしてみせるのは 反骨精神みたいなところがありますね。

高橋 反骨精神？布袋さまからの粋な罰があたりそうですよ。（笑い）「春の詠物」続けますね。

鋤の賛

☆ 畑に田に打出の鋤や小槌より 蕪村

自有感

☆ 苗代に馬も四角を覺たり 夢太

このお馬さん偉いですね。私も四角い部屋を丸くお掃除したりして・・・（笑い）
ところで、「自有感」ってどういう意味ですか？

会長 畑に田に打出の鋤や小槌より

これは 鋤鋤を褒めているわけです。
打出の小槌は大判小判を出しますが、鋤鋤も田畑を耕して価値を生み出しますから苗代に馬も四角を覺たり自有感は中国の言葉ですね。
「自ら感ずるところ有り」ですね。
農耕馬ですね。
馬は一度通った道はしっかり記憶してしまうものなので四角の田の角にくと、指示しなくても自主的に曲がるわけなんですね。

高橋 続けますね。鳴雪の詠物です。

御多福の圖

☆ 初花や東坡先生妹あり 鳴雪

御多福？　そう言えば源氏物語に出て来るお姫様
たちは今と違って皆お多福顔をしています
が・・・　ご説明下さいね。

会長　初花や東坡先生妹あり　お多福・・・

お多福は　決して美人じゃない　そのお多福を坡
先生の妹にイメージしたとしたら失礼な話です。
とすると　当時はお多福は不美人の象徴にあらず
ということになります。
むしろふくよかでやさしい　明るい感じの女性を
お多福と呼んで　福をもたらす
明朗を褒めたのではないか。
そう思いますね。

高橋　いよいよ春の詠物の部
最後の虚子の詠物の句です。

祝新婚

☆ 雛に似て色やや黒きそこもとよ 虚子

紅緑の笠に題す

☆ 陽炎がかたまりかけてこんなもの 虚子

ご解説下さいね。

会長　「雛に似て」は顔立が整っていて美形であると褒
めているわけですが
よく見れば色黒だねえあんた。
「顔立ちを褒めては貶し顔の色」というわけで
す。

裏切り構成ですね

陽炎がかたまりかけて・・・笠のイメージを陽炎がかたまりかけた　とした感性はすばらしいですね。

しかも下五に「こんなもの」という俗な表現ですから、滑稽の名句というべきでしょうか。

高橋　「温故知新」を目標に滑稽の本質を求めて面白くご案内戴いた108年前の過去への旅も凡例（編集方針）　自序（著者自らが書いた序文・・・つまりこれが『紅緑の滑稽論』だと会長はおっしゃいましたね。）を経て　春の部（天文・時令・地理・植物・動物・人事・詠物の七門）の旅が一年かけてやっと終わりました。

今は使われてない難しい漢字・古い言葉・知らない昔の風習が出てきてどうなる事かと最初は本当に心配しましたが・・・

会長の面白く分り易いご解説のお蔭で、今は、春の部まで読破出来たという不思議な達成感でいっぱいです・・・

会長の為になる面白いBACK TO THE PASTの春の部までの旅の達成を賀して、今回も平成の滑稽詠物のお手本をお願いできたらと思います。

前回同様、面白い滑稽俳句会長八木健節（虎造節？）を期待していますね。（ぱちぱち）

会長　私は大正時代の西洋建築でお殿様の別邸だった愛媛県有形文化財「萬翠荘」の館長をしています。来年には国の重要文化財になる見込みです。この萬翠荘に昭和天皇が摂政宮時代に二泊されている。その頃の肖像画を展示したのです。日本一の肖像画家・岡部信川先生の筆によるものですが、二十一歳の皇太子殿下です。観光客が発する言葉・・・イケメンです。昔なら　皇太子殿下をイケメンと言えば叱られる

はず。

それも時代の変化で美男よりもイケメンが褒め言葉なのですね。

そこで

摂政宮の肖像画の前にて一句

◆イケメンの殿下と呼ばれ夏館

萬翠荘の屋根にある避雷針の先端には松山藩の大判小判が使われています。

これがキラキラと光るんですね。

◆避雷針の大判溶ける炎暑かな

溶けて落ちてきたら、最近、金が高騰しているだけに大騒ぎになりますね。

(2010年5月号)